

吹奏楽Ⅰ・Ⅱ履修者による

B ブラス修了演奏会

2019年12月7日 100周年記念ホール



器楽専攻管打楽器1・2年生の必修科目「吹奏楽Ⅰ・Ⅱ」、通称「B ブラス」の修了演奏会が行われました。学年別と2学年合同の演奏を通じて日々、合奏技術、演奏技術の向上に励んだ1年間の成果をそれぞれ披露しました。先生方や先輩たちに見守られて、学生たちの演奏は生き生きとしていました。

会場で聴いていた先輩たち（3年生）に感想を聞きました。

「僕たちも1・2年生のころはB ブラスならではの苦労がありましたが、演奏を聴いて伝わってくるものがあって、懐かしいなという気持ちと、後輩たちはがんばっているなという尊敬の気持ちを持ちました。来年は今の2年生と一緒にA ブラス（吹奏楽Ⅲ・Ⅳ）でやっていくので、自分たちもがんばっていきたいなと思いました」と語ってくれたのは、3年生チューバの牧優吾さん。後輩たちのがんばりを温かく見守りながら奮起する先輩らしい表情を浮かべていました。

「修了演奏会お疲れ様でした。私も去年まではB ブラスだったので、懐かしいのと、若いパワーがありあまっている1・2年生はぴちぴちしていていいなと思いました。来年はA ブラスと一緒にいいものを

作っていけたらいいなと思います」と、3年サクソフォーンの鏡花音さんからは、来年新メンバーと一緒に新しい合奏が生まれることにわくわくしている感じが伝わってきました。

「去年まで僕もBプラスで同じようにやってきて、そのころをすごく思い出したのと、(学生の都合で今の)1年生とは一緒に授業受けられなかつたので、そういう面で1年生の演奏もしっかり聴けたし、演奏会としても苦労が伝わってくるいい演奏会だったなと思います。来年は今日乗っていた2年生と一緒にAプラスをがんばっていこうと思いました」と語ってくれたのは、来年Aプラスのインスペクターを務めることになっている3年生トロンボーンの原啓悟さん。学年の関係で吹奏楽の授業を一緒に受ける機会がない現1年生のことも気にかけていて、来年は自分たち4年生が、東京音大の「吹奏楽」を引っ張っていくんだという力強い決意が見えました。

演奏会後、ステージに再集合して、菅原淳先生が学生たちに話しました。「1年生は1年間大変によくがんばってついてきましたと思います。来年は新メンバー(1年生)が入ってきます。Bプラスを引っ張っていってほしい。2年生は2年間Bプラスで本当によくがんばりました。来年はAプラスに上がります。7月には定期演奏会が用意されています。それに向けた大変に厳しい練習が待っていますがしっかりがんばってほしいと思います」。

東京音楽大学が誇る「吹奏楽」の魂のバトンは、先輩たちから後輩たちにしっかりと引き継がれています。

～プログラム～

《1年》 指揮：近藤久敦 講師

P. スパーク／ ジュビリー序曲

E. ウィテカー／ オクトーバー

G. ホルスト／ 吹奏楽のための第一組曲

《2年》 指揮：菅原淳 教授

L. バーンスタイン／ キャンディード序曲

P. チャイコフスキイ／ イタリア奇想曲

《合同》 指揮：近藤久敦 講師

A. ゴーブ／ Awayday

J. バーンズ／ 詩的間奏曲

O. リード／ メキシコの祭り